



第16号  
 発行所 長野県小海高等学校同窓会  
 〒384-1105 長野県南佐久郡小海町  
 大字千代里1006の2  
 発行人 原 福 治 局  
 編集人 同 窓 会 事 務 局  
 印刷所 (株) 佐 久 印 刷 所

新しい歴史と  
 更なる伝統の継承に向けて



同窓会長 原 福治

記録的な猛暑であった夏もようやく過ぎしやうい季節となりました。

会員の皆様におかれましては、益々ご繁栄のこととお慶び申し上げますと共に、日頃の八ヶ嶺会に対しましてのご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、平成一九年、小池典夫前会長の下、大きな節目であります母校創立100周年記念事業をしてきたところであります。そのさいには募金委員長として、多くの会員の皆様にご協力をいただきましたことを、あらためて感謝申し上げますと共に、前会長の後を引き継ぎ、現在に至っておりますことをご報告申し上げます。ごあいさつに変えさせていただきます。

世は真に少子化時代、さらに進むであろう将来に向け、高校再編などきびしい状況下にある公立高校、幸いにして、郡内唯一の高校として、現在のところ対象に入っておりませんが、永久的には言い切れないのも現実であります。今後は、いかに特色のある、そして魅力ある校風を出せるかが求められるのではないのでしょうか。地域との連携はもちろんであります。会員の皆様の母校愛による更なる熱意が大きな力となることと思っております。

さて、同窓会の活動も、百十年の節目に向け、事業の展開をしていく計画

であります。つきましては、賛助金1口千円以上をお願いし、充実した活動にしていきたいと思っております。趣旨をご理解いただきまして、ご協

力をお願い申し上げます。終わりに、会員の皆様方のご健勝と更なるご活躍をご祈念申し上げます。お願いとご挨拶いたします。

心身ともに すこやかに 己をみがき



校長 宮坂 利典

同窓会員の皆様、はじめまして。この四月からお世話になっております。宜しくお願い申し上げます。平素から本校の教育活動充実のために何かとご支援、ご協力を賜り、感謝の言葉もありません。お陰さまで、後輩たちは百有余年の歴史を背に、学習や班活動など、活気に満ちた学校生活を送っております。学校の近況についてこの会報の紙面をお借りして同窓生の皆様にお知らせいたします。

で開催された「第41回八ヶ嶺祭」には多くの地域の皆様にご来校いただきました。ご来校いただきました皆様には充実した文化祭をご覧いただけましたと思っております。準備から当日まで、八ヶ嶺祭の企画や運営に取り組み生徒諸君をみていて、今の言葉でいう社会力について考えました。授業をとおして生徒が身につける学力はもちろんです。このような放課後の活動でつける力の大切さを実感した次第です。また、八ヶ嶺祭をとおして生徒たちは、地域の皆様の温かい声援や眼差しを直接に感じたことと思っております。

さて、今年の夏はことに厳しい暑さが続いたわけですが、この猛暑の中

頼られる学校」、「生徒の

進路を保証する学校」、「全人的発達を促す学校」という三点を目標に学校づくりに尽力してまいります。十分な成果がたつというところまでは至っていませんが、確実に前進してまいりました。

生徒たちは、人と人とのつながりや人間の温かさなど、地域で生まれ育った良さをお陰さまでいっぱい身につけています。豊かな自然と温もりある地域社会への愛着は、卒業生に共通する思いと感じます。在校生諸君には、校歌にもありますように「心身ともに すこやかに 己をみがき」、将来を担う存在としての力をつけて時代の荒波を乗り越えていって欲しいと願っています。

「今時の若い者は…」とメソポタミア文明の時代から言われ続けてきました。年長者からすれば、若者に抱く不安は寄せる期待よりもはるかに大きいからだと思えます。頼りなく見える後輩ですが、先輩諸氏には叱咤と激励をお願いいたします。



思い出

中嶋尚美 (昭 54)



長く暑い日が過ぎや... 秋が訪れたと思つたら、冬のような寒さが来たり、予想もつかない陽気が続きます。

私は、昭和五十四年度の卒業生です。原稿の依頼を受けてからなつかしい卒業文集「新たな出発(たびだち)に向かって」を引き出して読み返してみました。自分達が何を思つて生活していたか色々と思ひ出しました。まず、入学式に校舎が大変古くその中でも、一年三組だった私達の教室は特に暗く寒い場所にあつたことを書いていました。ぬくぬくとした中学校生活から移つた時は少々辛く感じたと思いますが、恵まれ過ぎていても逆に校舎の思い出は残つていなかったかもしれません。

また、ある先生の文章の中にも、私達の教室について、春には教室いっぱいにアカシアの花の香りが漂い、夏には千曲川の瀬音が聞こえ、冬にはスキ間風に負けるまいと、二つのストーブが懸命に音をあげて、まさしく小海高校の象徴ともいいうべきなつかしい木造教室... と書いてくださったのを読み返し、心暖まる思いがしました。

昭和五十四年七月、以前から建設の進んでいた新校舎が完成し、夏休みと同時に引越しが始まりました。高台に造られた校舎は、自然豊かな中にあり、上り坂、下り坂をまずは思ひ出します。私達は、新校舎での生活は短い時間でしたが、今また、息子がお世話になったことで、何度か校舎に入る事が出来、また新しくつくられた八ヶ嶺会館も利用させて頂きました。この環境の中で、これからも多くの子どもたちが学び続け、思い出を作ってくれることを願っています。

携わつて下さる先生方に感謝をしながら、これからの小海高校のますますの御発展を心よりお祈り申し上げます。

教育実習を終えて

吉田雅弘 (平 15)



美術班 井出 舞さん

この教育実習を通じて、学校で授業を行うことの大変さや、教師という仕事の大変さを身を以て体験できました。

まず授業に関して、私は塾でのアルバイト経験があつたので、教えることは大丈夫だろうという気持ちで臨んでいました。しかし、塾の授業は学校で習ったことの復習や応用を教えるということに對して、学校での授業は生徒にとつて新しいことを教えるため、勝手が全く違いました。特に私が担当した数学において、新しい分野を教えるといふことは生徒にとつても抵抗があり、わかりやすく教えるにはどうしたらいいかととても悩みました。そのため、毎時間教材研究には多くの時間がかかりました。また、授業の板書計画を作成する上でもとても時間を費やしました。普段大学院では自分のために勉強し、ゼミの発表についても先生に對して行っているため、板書はある程度省略しても理解してもらえ、

書き損じや間違いなども指摘してもらふことができます。しかし、授業の板書はそうはいかず、生徒は書かれていることを疑いなく信じてしまうことが多いので、どんなことにも對しても正確に書き、細心の注意を払う必要があります。加えて、授業を行う上で、授業内容をしっかりと理解しているかなど、生徒との掛け合いも大切だときびきりました。

授業以外に對しても教師の仕事はとても沢山あり、毎日刻みで仕事をこなしているという状況でした。また、1年生と3年生に一時間ずつ大学生活や進路のアドバイスなどの講話を行いました。普段そういうことに慣れていなかったため、とても四苦八苦し、こういったことも教師の重要な能力なのだと思います。

教師の大変さを述べましたが、授業を行うことの楽しさや教師の仕事のやりがいを実感でき、とても充実した3週間でした。

た。そして、今は教師を目指し日々努力しています。最後に、今回お忙しい中教育実習を受け入れていただき、校長先生、教頭先生、担当の先生はじめ、諸先生方にはとてもお世話になりました。ありがとうございました。

賛助金払込みのお願い

八ヶ嶺会報は、会員の皆様からの賛助金により発行しております。今後の事業を継続していくために賛助金へのご協力を願います。

10千円です。同封の「払込取扱票」により郵便局から送金していただきます。なお、2口以上ご協力して送金いただける場合には、金額欄をご訂正ください。住所変更の方は、住所のあとに「変更」と記入してください。



美術班 草間優菜さん



現在は小海高校北校舎前



南実 玄関・教室棟前の一位の樹 左は柔道棟

現在も国道 141 号沿に残る農業科廃止記念碑  
「耕しつ学びし 我等ここに巣立つ」



## 受け継がれゆく我らが精神

思いは一つ いつまでも

イチイ  
～一位の樹～

創立 70 周年校舎全面改築記念誌 井出利治同窓会元副会長「本校の 70 年をふりかえって」より

5 回も植え替えられた学校のシンボル一位の樹について。この樹については、同窓会名簿にも一寸書きましたがさらに歴史として書くことにする。

この樹は、土村旭町新津吉丸様より明治 42 年開校時寄贈されたもので、ご子息直衛様を訪ねた。同家は新潟県新津市の住民で、法師であった由、諸国を托鉢して廻る内、親沢字大菅に大寛院という庵を持ち、方々へ出向かれ当時の二男海野次郎が旭町に分庵した。数年後に本家がつぶれ全部土村に引っ越した。その折に、過去茂来山より庭に植えてあったものを形が変わった樹だったので運んで庭に植えたものだ、それから父で 17 代目にあたるという（直衛様の話）この樹が大正 7 年学校が移転された時すんでの事に取り残される所だった。校舎も養蚕室も移転された後に樹だけが残されており、10 名余りの生徒が校長の命により実習時間に車を引いて持ちに行った。鉄道の工事でも進んですでに倒れる程根本が掘られており、車に付けようとしたら、近所の某氏から「その樹は俺が貰ってある」と異議が出たが、当時番長格の堀川義一氏（農業校 12 回卒）が「とぼけるな学校の樹だ」と、怒り返してそのまま車に積んで運んだ。当時の馬流橋は貧弱で、荷馬車は通れないので少しでも重量を軽くするために、車には 2 人の梶取りだけがつき、他の者は橋の終わった所で綱を長くして引っ張ったものだ（堀川氏話）。開校以来のたった一つだけの記念の「一位」の樹が先輩のようなエピソードもあった事により護られた事は大変嬉しいことです。

今回南原の新校舎の玄関前に、植えられて 5 回目、永久に大切に保存したいものです。

### 南実時代の思い出

旧職員 新津八郎



私の勤務時代の学校は南佐久実業高等学校と称し、略称は「実高」と呼ばれ、学校間では「南実」と呼ばれていた。そして設置されていた科は、農業科、被服科、普通科、定時制の四科から成っていた。私の在勤したのは昭和二十四年から同三十二年までと、二回目の昭和三十八年から同四十七年度の前後合わせて十七年間でした。併し私も最早「卒寿」を間近に控え、記憶力、表現力共にまことに不確か傾向が強いので、その点御寛恕願いたい。さて、この学校の旧制度名は南佐久農林学校および南佐久家政女学校で、創立以来、白南唯一の中等学校（後に高等学校）として、生徒はもとより、地域住民の

期待と誇は深いものがあった。そのためか、特に小海以南の地域において、政治経済面をはじめとして、社会文化等の広範囲にわたって、指導的立場で活躍する人が多い。又このような雰囲気の中で育った生徒諸君も素朴だが、向上心に富む生徒が多かった。特に校名を高らしめたのは、言うまでもなくクラブ活動としてのスケート部や陸上部の活躍で、特に女子班の活躍は目覚ましく、全国優勝九連勝および十一連勝という偉業を打ち立てると同時に、未曾有の数次におよぶオリンピック出場や、また各種世界大会への出場であった。高見沢初枝（長久保）はあまりにも有名ですが、内地で一番早く結氷する白駒池まで徒歩で往復するというような苛烈なトレーニングを指導した井出宗雄名監督の名も忘れてはなりません。私の受持った組にも数人の女生徒がおりましたが、一人は世界大会にも出場しておりました。私がこれらの一

連の偉業に対して感じたことは、国内のそれや、世界の検舞台に出演して、世界の有名選手を好敵手として、交流して得たスマートさと、限らない自信とが、全校に対して有形無形の限らない影響力をもたらしただけであつた。私は担任のない時は、度々「生徒指導」という嫌われ役につくことが多かったが、そのため東京方面などで行われた各種の会合にも出席する機会があり、そういう場面で、「南佐久実業」の校名を挙げれば、県下の他の地域の学校名はとにかくとして、多くの出席者が、本校の校名を知っていたことである。まだまだご紹介したいことは多々ありますが、紙面の都合もありますので、割愛させて頂き、長々の駄文をお赦しください。



美術班 井出 舞さん

### 里山事業に参加して

依田猛義（昭51）

平成 22 年 8 月 7 日、学校の里山事業に同窓生として参加させていただきました。同窓会からは、由井春吉佐久支部長にも参加していただきました。



作業をすすめる生徒たち

当日は連日の猛暑日でしたが、生徒 41 名、校長先生をはじめ職員の方や PTA、佐久地方事務所林務課の職員を含め総勢 60 名を超える規模でしたが、全員ケガもなく無事作業できました。

冒頭、担当される先生や林務課の職員より刃物取り扱いの注意事項や、この学校林が当時姉妹校だった白田高校より山林が分けられた経緯を聞きました。その後班ごとに作業箇所が割り当てられ、初めての下草刈りを体験しました。

生徒の皆さんは、当初はぎこちなく手を動かしていましたが、後半になるとコツを覚えたらしく、大きな木に取り組む生徒までいました。

後半には直径 50 cm を上回る大木の伐採を間近に見学し、倒木の迫力や倒木させる技術のすごさを林務課の職員の方の解説を交え説明をいただきました。校長先生が、「なぜこの木を選んだのですか」と尋ね、伐採にも周りの様子を見ながら木を選別していると問答されていました。

作業終了後、円陣を組みお弁当を頂きました。このとき篠原靖 PTA 会長さんより焼きトウモロコシが差し入れされ、美味しく頂きました。終わりの会では、林務



依田さん（左）と由井さん（右）

課の職員よりこの現場で取った土とグラウンドから持ってきた土をそれぞれペットボトルに詰め、水の浸透差を比較する保水実験をして頂きました。改めて、森林保全には水害防止や水源確保に役立つことを皆で確認したひと時でした。

この事業に参加して感じたことは、明るく素直な生徒や、情熱を持った先生方に接し、我が母校も健全で良かったと、さわやかな風と汗を感じ取

生徒会活動

前生徒会長長須田奈央佳



同窓会員の皆様、日頃から小海高校の活動に御尽力頂きありがとうございます。「八ヶ嶺会報」発行にあたり、このように小海高校の様子をお伝えする場を頂き光栄です。

現在、私たち3年生は進路を決める大事な時期です。既に受験を終えた者、これから受験を迎える者、合格発表待ちの者等々いずれもそれぞれの「夢」へ向かい頑張っています。1・2年生も部活動や生徒会、勉強に毎日励んでいます。部活動においては、13の運動部と5つの文化部が活動しています。どの班も日々の練習に励み、成果を出しています。特にスケート班、スキー班は全国大会でも活躍しています。また今年度は野球班が夏の甲子園予選で4年ぶりとなる1

勝をあげました。生徒会活動では、9月に第41回の文化祭を無事終え、10月に生徒会の役員も引き継ぎとなりました。平成22年度前期生徒会では役員会の際にも多くの意見が出ていたように感じますし、全校生徒からの意見や要望も多く出ていました。文化祭でも「挑戦」というテーマのもと新たな企画を取り入れるなど活発に活動できたと思います。私たち3年生は既に引き継ぎとなつていますが、放課後に残つて生徒会の活動をしている2年生をよく見かけます。2年生は部活動や、生徒会が次々と引き継がれ大変な時期だと思いますが、今後も新生徒会長を中心として活気のある生徒会をつくりていってほしいと思います。今後、全校生徒からの意見や要望をどのように生徒会活動に活かしていけるかが課題だと思います。

勝をあげました。

生徒会活動では、9月に

第41回の文化祭を無事終え、10月に生徒会の役員も引き継ぎとなりました。

平成22年度前期生徒会では役員会の際にも多くの意見が出ていたように感じますし、全校生徒からの意見や要望も多く出ていました。

文化祭でも「挑戦」というテーマのもと新たな企画を取り入れるなど活発に活動できたと思います。私たち

3年生は既に引き継ぎとなつていますが、放課後に残つて生徒会の活動をしている2年生をよく見かけます。

2年生は部活動や、生徒会が次々と引き継がれ大変な時期だと思いますが、今後

も新生徒会長を中心として活気のある生徒会をつくりていってほしいと思います。

今後、全校生徒からの意見や要望をどのように生徒会活動に活かしていけるかが課題だと思います。

勝をあげました。



美術班 草間 優菜さん

大会結果

平成21年度(冬)

平成22年度(秋)まで

【スケート】

○県高校中学選抜大会

1000m 村上6位

1500m 村上3位

3000m 山浦6位

5000m 篠原4位

10000m 篠原優勝

○県総体県大会

1000m 小林5位

1500m 村上2位

5000m 山浦9位

10000m 篠原優勝

20000mリレー

(村上・小林・山浦・篠原) 優勝

○全国大会

5000m 篠原6位

10000m 篠原6位

○新人大会

1000m 村上3位

1500m 村上4位

10000m 小林5位

100000m 小林2位

【スキー】

○全国大会

寺島 出場

寺島

【野球】

○全国高校野球選手権長野大会

波多野 SL43位

寺島 スーパーG17位

波多野 SL10位

○東信大会

小海 8-30 上田

波多野 SL43位

寺島 スーパーG17位

波多野 SL10位

○全国選抜大会

寺島 スーパーG17位

波多野 SL10位

○東信大会

小海 8-30 上田

寺島

3位決定戦

小海 8-23 野沢北

女子 1回戦

小海 3-118 野沢北

3位決定戦

小海 2-2-15 野沢南

○県大会

男子 1回戦

小海 2-2-23 茅野

女子 1回戦

小海 2-4-25 美須々丘

○東信大会

男子 準決勝

小海 1-3-23 上田

3位決定戦

小海 1-5-23 上田

○東信大会

男子 準決勝

小海 1-3-23 上田

3位決定戦

小海 1-5-23 上田

○東信大会

男子 準決勝

小海 1-3-23 上田

3位決定戦

小海 1-5-23 上田

○東信大会

男子 準決勝

小海 1-3-23 上田

3位決定戦

小海 1-5-23 上田

○東信大会

男子 準決勝

小海 1-3-23 上田

3位決定戦

小海 1-5-23 上田

寺島

○東信大会

男子学校対抗 5位

○県大会

男子学校対抗 出場

○東信大会

男子学校対抗 予選

男子学校対抗 予選

男子シングルス

岩井 3回戦進出

【柔道】

○東信大会

男子個人90kg級

中田 7位

○県大会

男子個人90kg級

中田 出場

【ソフトテニス】

○東信大会

男子団体戦 予選

女子団体戦 予選

○東信大会

男子団体戦 予選

○東信大会

男子個人戦

関 決勝戦出場

女子個人戦

神戸、小林、市川

○東信大会

男子個人戦

池田 決勝戦出場

池田 7位

○県大会

男子個人戦

池田 出場

池田

池田

池田

平成二一年度進路状況  
進路指導部  
加藤 和夫

【大学】  
大学側は、いわゆる「ゆとり教育」により生徒の学力が低下していると推測し、大学入学後に対応できる力があるかどうかを入試で知りたい、と考えている。従って、国立大学ではセンター試験の受験科目を五教科七科目にする大学が多く、私立大の一般入試では難関大学ほど教科数が多い。その余波を受けて、推薦入試にもセンター試験など学力試験を重視する動きが強くなってきている。本校のように推薦入試が中心の学校においては、努力して実力をつけていく必要性がますます強まっている。個別指導の大切さや、最後までやり抜く意志の強さが求められている。

本校では、生徒諸君の努力に加え、小論文の全職員対応、面接指導の徹底、学力養成講座の実施等により、国公立大学で

は過去最高の八名の合格者が出ている。平成二〇年度の国公立大学六名を上回る成果である。これは担任の指導の下、早い段階からの意識付けと準備の開始がうまくかみ合い、最後まで諦めずにやり抜いた成果である、と考えられる。

【短大】  
全国的に短大が四年制に移行する傾向が続いており、受験生も短大離れがみられ、進学率は六%に留まっている。本校でも二一名から一三名に減った。しかし、学費が安い公立は人気で、昨年同様二名のみ合格である。昨今の経済不況から、負担軽減、地元就職有利から、今後人気回復も考えられる。

【専門学校】  
本校では半数五三名が進学している。看護など医療系が難しく、就職には有利である。一方、高い就職率を謳いながら、契約社員まで就職率に含めているケースもあり、十分な事前調査が必要である。医療系三一%を筆

過去 3 年間の進路状況

	21 年度	20 年度	19 年度
大 学	33 名	38 名	25 名
短期大学	13 名	20 名	16 名
専門学校	53 名	39 名	43 名
就 職	8 名	17 名	7 名
そ の 他	6 名	0 名	3 名

頭に、デザイン、情報、動物、自動車、美容、調理等、職業に直結する資格取得を目指す各分野がそれぞれ一〇%前後を占めている。

【就職】  
百年に一度といわれる大不況に、本校も厳しい状況となった。これに対し、就職支援員制度が適用され、積極的な求人開拓をしていただいた結果、全員内定をもらうことができた。前年採用の企業訪問、夏期休業中の就職対策講座や会社見学、SPI2 や履歴書の指導など、より早めの手を打って、今後の進路指導に生かしていきたい。

平成 21 年度 (平成 22 年 3 月卒) 主な進路先

国公立大学

- 信州大学 教育学部 学校教育教員養成課程理数科学教育専攻(1)
- 信州大学 工学部 土木工学科(1)
- 都留文科大学 文学部 国文学科(2)
- 都留文科大学 文学部 社会学科(2)
- 富山大学 理学部 生物圏環境科学科(1)
- 山梨大学 医学部 看護学科(1)

私立大学

- 桜美林大学 総合文化学群(1)・大東文化大学 文学部(1)外国語学部(1)
- 東海大学 文学部(1)・東京電機大学 工学部(1)
- 東京福祉大学 心理学部(1)・山梨学院大学 法学部(2)
- 山梨英和大学 人間文化学部(1) 松本大学人間健康学部 (1) など

短期大学

- 大月市立大月短期大学経済科(2)・上田女子短期大学幼児教育学科(1)・実践女子短期大学食物栄養学科(1)
- 高崎商科大学短期大学部現代ビジネス学科(1)・長野女子短期大学生活科学科(1)・長野清泉女学院短期大学国際コミュニケーション科(1)・松本短期大学 看護学科(1)・松本大学松商短期大学部 商学科(2)など

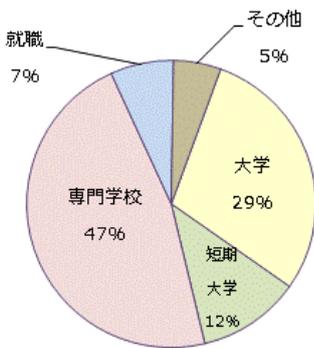
専門学校

例えば医療・看護系では

- 佐久総合病院看護専門学校(1)・上尾中央看護専門学校(1)・戸田中央看護専門学校(1)
- 小諸看護専門学校看護学科(3)・松本看護専門学校看護学科(1)・松本歯科大学衛生学院歯科衛生士科(1)
- 太田医療技術専門学校歯科衛生学科・作業療法学科・理学療法学科(各 1)・昭和医療技術専門学校医療専門課程臨床検査技師科(1)・信州医療福祉専門学校はり・きゅう科(1)など

就職

- 公務員 (警視庁) 株式会社 データサービス 株式会社ヤツレン 浅間化学企業組合 株式会社やなぎだ
- 有限会社入倉米穀 有限会社カットハウス比呂 有限会社なかじまタタミ店



<b>1 総括</b>						
歳入総額		399,435 円				
歳出総額		0 円				
差引残額		399,435 円				
<b>2 歳入 (単位:円)</b>						
科	目	予算額	決算額	増減額	説明	
1	賛助金	0	0	0		
	1 賛助金	0	0	0		
2	諸収入	0	9	9	9 利子	
	1 諸収入	0	9	9		
3	繰越金	0	399,426	399,426		
	1 繰越金	0	399,426	399,426		
合計		0	399,435	399,435		
<b>3 歳出 (単位:円)</b>						
科	目	予算額		決算額	不用額	説明
		当初	流用			
1	管理費	0	0	0	0	
	9 旅費	0	0	0	0	
	11 需用費	0	0	0	0	
	12 役務費	0	0	0	0	
	14 使用・手数料	0	0	0	0	
	18 備品費	0	0	0	0	
2	印刷費	0	0	0	0	
	1 会報費	0	0	0	0	
	2 振込用紙	0	0	0	0	
3	発送費	0	0	0	0	
	11 需用費	0	0	0	0	
	12 役務費	0	0	0	0	
4	拠出金	0	0	0	0	
	1 本会拠出金	0	0	0	0	
5	予備費	0	0	0	0	
	1 予備費	0	0	0	0	
合計		0	0	0	0	

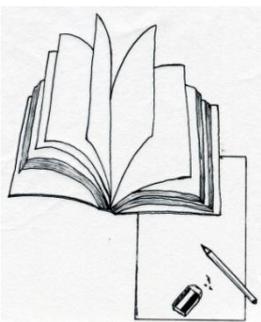
<b>1 総括</b>							
歳入総額		3,112,182 円					
歳出総額		381,360 円					
差引残額		2,730,822 円					
<b>2 歳入 (単位:円)</b>							
項	目	予算額	決算額	増減額	説明		
1	同窓会収入	555,000	555,000	0	5,000円×111人		
	1 納入金	555,000	555,000	0			
2	雑入金	0	0	0			
	1 雑入金	0	0	0			
3	諸収入	701	883	182	預金利息		
	1 諸収入	701	883	182			
4	百周年収入	0	0	0			
	1 百周年収入	0	0	0			
5	繰越金	2,556,299	2,556,299	0	前年度繰越金		
	1 繰越金	2,556,299	2,556,299	0			
合計		3,112,000	3,112,182	182			
<b>3 歳出 (単位:円)</b>							
項	目	予算額		決算額	不用額	説明	
		当初	流用				
1	運営費	3,090,000	0	3,090,000	381,360	2,708,640	
	1 総務費	640,000	0	640,000	181,360	458,640	
	1 総会	180,000	0	180,000	29,000	151,000	
	2 役員・部会費	50,000	0	50,000	0	50,000	
	3 旅費	70,000	0	70,000	0	70,000	
	4 需用費	110,000	0	110,000	66,611	43,389	
	5 交際費	150,000	0	150,000	83,249	66,751	
	6 役務費	60,000	0	60,000	2,500	57,500	
	7 使用料及び賃借料	20,000	0	20,000	0	20,000	
	2 事業費	450,000	0	450,000	200,000	250,000	
	2 クラブ後援会補助金	200,000	0	200,000	200,000	0	
	3 支部活動補助金	0	0	0	0	0	
	4 八ヶ嶺会部会活動費	250,000	0	250,000	0	250,000	
	3 記念事業費	2,000,000	0	2,000,000	0	2,000,000	
	1 記念事業準備費	2,000,000	0	2,000,000	0	2,000,000	
2	予備費	1 予備費	22,000	0	22,000	0	22,000
合計		3,112,000	0	3,112,000	381,360	2,730,640	

平成 22 年度八ヶ嶺会役員

- 名誉会長 坂本 政恵  
 会長 原 福治  
 副会長 井出 功孝  
 副会長 木次 清一  
 副会長 中島 洋子  
 副会長 薩田 百合子  
 監事 小池 潔  
 監事 小池 今朝敏  
 監事 小池 典夫  
 顧問 中島 靖夫  
 顧問 遠藤 實  
 川上支部長 菊池 智弘  
 南牧副支部長 篠原 利治  
 小海川西支部長 井出 和人  
 小海川東支部長 依田 猛義  
 南相木支部長 中島 己良  
 南相木副支部長 中島 初江  
 坂本支部長 坂本 健一  
 北相木支部長 畑 征夫  
 佐久穂町佐久支部長 市川 千春  
 佐久市日田支部長 新井 竹夫  
 佐久市日田支部長 田嶋 千里  
 佐久市日田支部長 由井 春吉  
 関東支部支部長 井出 功孝  
 関東支部副支部長 藤原 和利  
 関東支部副支部長 中島 文六  
 関東支部副支部長 菊池 章人  
 関東支部副支部長 新海 英明  
 関東支部副支部長 篠原 章  
 関東事務局 前嶋 靖子  
 スケート班OB・OG会会長 鷹野 隆  
 スケート班OB・OG副会長 市川 秋子

編集後記

創立百周年事業を終えて以降、大幅に発行が遅れましたことを会員の皆様にお詫び申し上げます。この会報では、創立以来ずっと学び舎を見守り続ける一位の樹をとりあげ、南実から小海高校にわたって年代ごとに学生時代の思い出を会員の皆様に書いて戴きました。わが母校への思いはみな一緒に、夢と希望に燃えて入学した当時を思い出すことができることでしょうか。これからも会員の皆様の築き上げた伝統を後輩の皆さんと同じ気持ちで勉学に努めるものと思います。お忙しいなか原稿をお寄せいただいた皆様に感謝申し上げます。会員皆様の今後のご活躍をご祈念申し上げます。会報発行にあたり細心の注意をはらい作業を進めてまいりましたが、不手際がございましたらご容赦願います。改姓、転居、ご逝去等の異動の際はお手数ですが事務局までお知らせ下さい。



美術班 井出 舞さん